

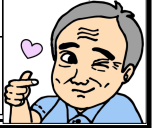
国語学習プリント 古典入門

date : 年 月 日

学習内容：古典の基礎を学ぶ

年 組 番

氏名



古典を学習する上で、留意すること

① 「仮名づかい」について

昔と今とでは、仮名の使い方が違うことがあります。

《はじめに》

i 濁点・半濁点のつく仮名はなかった。

濁音・半濁音(濁点「゛」や半濁点「゜」)を書き表す方法が昔はなかったため。

※教P154 「いろは歌」を見るとわかると思います。

※教科書では理解を深めるためにふつてある場合があります。

ii 拗音(やゆよ)や促音(っ)をあらわす仮名もなかった。

iii 句読点(。や、)もなかった。

※教科書では理解を深めるためにふつてあります。

iv 現代では使われなくなった仮名があった。

「ゐ(ヰ)」 「ゑ(ヱ)」 など

◎ 「歴史的仮名遣い」とは

仮名は太平洋戦争終結後、現代のようにまとめられました。それ以前は、古典を含め昔の仮名のつかいかたをしていました。いわゆる旧仮名遣い。これを歴史的仮名遣いといいます。

これに対して、現在の仮名のつかいかたを現代仮名遣いといいます。

歴史的仮名遣い ≠ 文語

※あくまで仮名遣いのことをいうもので、「文語」「口語」とは違う次元のものです。歴史的仮名遣いで表現されていても「口語文」のこともあるということです。

② 古典語(文語)には、

ア 古典だけに使われる言葉(現代では使われなくなった言葉)イ 形が同じかほぼ同じだが、意味が変わってしまったものウ 形が同じかほぼ同じで、現代でも同じ意味で使われるものがある。

アの例

いと 訳「たいそうとても」
わろし 訳「よくない、見劣りがする、みつもない」
つきづきし 訳「似つかわしい」
ことさめて 訳「興ざめして」

イの例

かなし 現「泣きたくなるほどつらい」
古「いとしい、かわいい」
をかし 現「笑えるほどおもしろい」
古「趣がある、みごとだ、すばらしい」
あはれ 現「みすばらしい、気の毒だ」
古「しみじみとした情趣」
うつくし 現「きれいだ とどのつている」
古「かわいらしい」

問題 次の古典語を「現代仮名遣い」に直して書きなさい。

- | | | | |
|----------|--------|-----------|--------|
| 1 あど | 2 こゑ | 3 をとこ | 4 ぢごく |
| 5 みづ | 6 おはす | 7 言ふ | 8 こひ |
| 9 うへ | 10 にほひ | 11 まうす | 12 かうし |
| 13 からうじて | 14 やうす | 15 じやうげ | |
| 16 けふ | 17 てふ | 18 げせう | 19 くわし |
| 20 うつくしう | | 21 やむごとなし | |

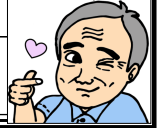
国語学習プリント 古典入門

date : 年 月 日

学習内容：応用編

年 組 番

氏名



③【係り結び】 古典特有の決まり（法則）について。

ある特定の語（助詞）が文中にあると、文末（句末）が「終止形」では終わらない法則を「係り結び」といいます。

（係助詞）
特定の助詞

文末

連体形

連体形

連体形

連体形

已然形：已然とはすでにそう
なっているの意。
連体形：体言（名詞）につながる形

例 花ぞ昔の香にほひける

※係助詞自体に意味はありませんが、強意（強調）を表わすとされています。

④覚えておくと便利な「ば」の用法

古典では「ば」という助詞のすぐ前の活用語の形によって訳し方が変わってきます。

▼已然形十ば……確定条件

▼未然形十ば……仮定条件

・小町は歌の上手なれば形動「上手なり」の已然形

・振り放け見れば動「見る」の已然形

〔振りあおいで見ると〕

・よき歌を詠まむと思はば動「思ふ」の未然形

※確定条件 ……で、…と どちらで訳すかは状況を見て

文語助動詞活用表

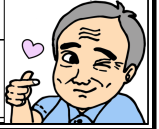
Table with columns for grammatical forms (e.g., 希望, 使役, 受身, 断定, 伝聞, 打消, 推量, 打消, 推量・意志, 完了, 過去) and rows for various verb forms (e.g., たし, まほし, しむ, さす, す, らる, る, たり, なり, なり, まじ, じ, ず, めり, まし, らし, べし, けむ, らむ, むす, む, り, たり, ぬ, つ, けり, き). Includes a '注' section for usage notes and a '接続' section for verb connection rules.

学習内容 :

いろは歌

年 組 番

氏名



いろは歌

いろはにほへど ちりぬるを

わかよたれそ つねならむ

うるのおくやま けふこえて

あさきゆめみし ゑひもせず

※いろはにほへど 散りぬるを

※我が世たれそ 常ならむ

※有為の奥山 今日越えて

※浅き夢見じ 酔ひもせず

※色はにほへど

①「色」とは何の色

②「にほふ」とは

※有為の奥山

「有為」とは【仏語】直接、間接の諸条件、すなわち因、縁の和合によつて作られている恒常でないもの。

※恒常 物事が変わりなく一定であること

つまり

※浅き夢見じ

・浅き夢＝儚い夢
・「じ」は打消し意志（〜まい、〜ないようにしよう）

口語訳

自分なりに訳してみよう。

【参考】

色はにほへど「色」は花の色を指す。「にほふ」は美しく照り映えるの意。有為の奥山＝常に一定ではないことを「有為」という。無常であるこの世の中を、超えにくい深い山にたとえたもの。

「いろは歌」は仏教の教義のそれぞれを表わしているともいわれる
諸行無常 この世の万物は常に変化して、ほんのしばらくもどまるものはないこと
是生滅法 生命のあるものは、いつかは必ず滅びて死に至るということ
生滅滅已 生と死が滅して、現世を超えること
寂滅為楽 涅槃は心の境地に至って、初めて真の安楽を得ることができるといふこと

訳 (教科書)

色は美しく照り映えていても (花は) 散ってしまうものである
私たち この世の誰が 永久に変わらないことがあるか
いろは歌 深い山を 今日越えて(いくのだが)
浅い夢など見ることはない 心をまどわされもしない

国語学習プリント

古典

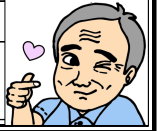
date : 年 月 日

学習内容 :

蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から

氏名

年 組 番



蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から

※この冒頭の部分は暗唱課題

① 今は昔、竹取の翁といふものありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

⑥ あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

※一寸＝3.03cm よって三寸は9cmほど

竹取物語 『源氏物語』に「物語の出で来はじめの祖なる竹取の翁」と紹介されている九世紀末から十世紀初頭にかけて成立したと思われる作者未詳の我が国最古の作り物語。

① 今は昔 「今ではもう昔のことであるが」と訳されることが多い。その後の物語の書き出しが「今は昔」と始まることから、慣用語となっていた。現代の昔話の「むかしむかし」にあたる。

② けり 過去（伝聞過去）を表わす文語助動詞。（〜た。〜たということだ。）

③ まじりて 「分け入って」と訳されることがほとんど。

④ よろづ いろいろな たくさんの

⑤ なむ 係助詞（「係り結び」を起こす助詞）

⑥ あやしがりて 不思議に思つて

⑦ たり 完了した。・存続している。〜である。〜を表わす文語助動詞。

⑧ 見れば 見ると

見れば 已然形 + 「ば」＝確定条件（見ると、見たので）

Table with 2 columns: 基本形, 未然形, 連用形, 終止形, 連体形, 已然形, 命令形. Row 1: 見る, み, み, みる, みる, みれ, みよ. Row 2: 見ると, み, み, みる, みる, みれ, みよ.

⑨ いと たいそう とても

⑩ うつくしう かわいらしい様子で ⑪ ゐたり 座っていた

参考 係り結び

係り結びとは、文中（句中）に特定の語句（係助詞「なむ・ぞ・こそ」など）があると、文末（文末）の語が終止形では終らなくなる古典特有の法則です。

参考 文語助動詞

Table with 3 columns: 基本形, 未然形, 連用形, 終止形, 連体形, 已然形, 命令形, 意味. Rows include たり, けり, なむ, 存疑, 完了, 伝聞過去.